

# 高松空港国際線のビジネス利用の実態調査

＊ ＊ 香川県内企業による高松空港国際線のビジネス利用状況の調査結果を踏まえて ＊ ＊

一般財団法人百十四経済研究所では、インバウンド観光客の大幅増加や民営化で注目されている高松空港国際線について、「香川県内企業によるビジネス目的での利用状況」等に関するアンケート調査を実施し、その結果を以下のとおり報告する。

## 要旨

- ① 県内企業の35%がビジネス目的で海外出張を行っており、その出張先（国・地域）の上位は上海、台湾、韓国、ベトナム、香港である。
- ② 海外出張に利用する空港について、高松空港以外では関西空港が最も利用されている。
- ③ 新規就航の希望路線としては、ベトナムが最も多く、次いでタイ、シンガポールなど東南アジアが多い。
- ④ 改善要望・意見では、駐車場の改善、国内外路線の充実などが多く寄せられた。

## 1. 県内企業の海外出張の現状

### (1) 海外出張の現状

有効回答企業 293 社のうち、「ビジネス目的での海外出張がある」と回答があったのは 104 社（35%）（図表 1）。製造業では、有効回答企業 138 社のうち 65 社（47%）が海外出張している一方、非製造業では回答企業 155 社のうち 39 社（25%）と、海外出張する企業の割合は製造業に比べて低くなっている。

図表 1 県内企業の海外出張状況（業種別）

業種	海外出張あり		出張なし		計
	社数	(比率)	社数	(比率)	
製造業	65	(47%)	73	(53%)	138
素材型	13	(30%)	31	(70%)	44
加工組立型	23	(70%)	10	(30%)	33
生活関連等	29	(48%)	32	(52%)	61
非製造業	39	(25%)	116	(75%)	155
建設業	8	(33%)	16	(67%)	24
卸売、小売業	11	(26%)	32	(74%)	43
運輸業	3	(20%)	12	(80%)	15
サービス業等	17	(23%)	56	(77%)	73
計	104	(35%)	189	(65%)	293

海外出張実施の 104 社について、従業員規模（図表 2 参照）からみると、製造業・非製造業いずれにおいても規模が小さくとも出張する企業数が多い。

製造業のうち、加工組立型及び生活関連等の各業種において、比率が高いことから海外でのビジネス活動に携わっている状況がうかがわれる。

非製造業においては、内需向け中心と見られている建設、卸・小売、サービス業においても海外へのビジネス進出がみられる。

図表 2 海外出張企業の規模別業種別分布

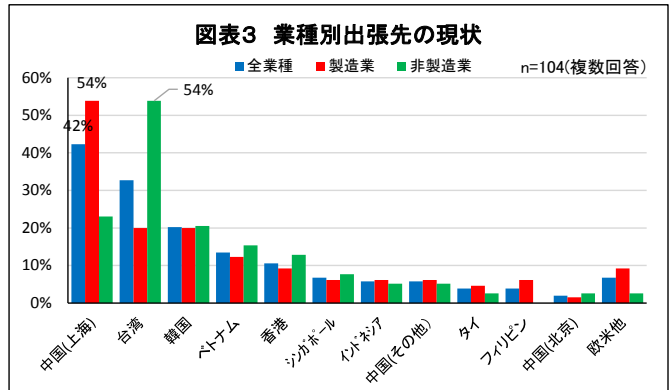
業種	従業員規模			計
	100人未満	300人未満	300人以上	
製造業	36	19	10	65
素材型	5	4	4	13
加工組立型	9	9	5	23
生活関連等	22	6	1	29
非製造業	24	8	7	39
建設業	4	1	3	8
卸売、小売業	7	3	1	11
運輸業	2	1		3
サービス業等	11	3	3	17
計	60	27	17	104

## (2) 出張先の現状

ビジネス目的で海外出張を行っている 104 社について、図表 3 は出張先（国・地域）を整理した結果（複数回答）である。

全業種では、直行便がある中国（上海）が最も多く 42%を占めている。

製造業では中国（上海）が 54%と多いが、非製造業では直行便のある台湾が 54%と最も多い。また、直行便はないが、ベトナム、シンガポール、インドネシアなど、東南アジア諸国へ出張している。



## 2. 高松空港の直行便利用状況

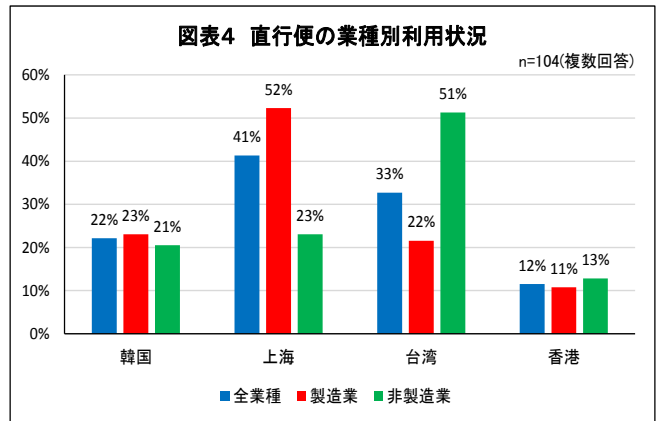
2018年4月末現在、高松空港では韓国ソウル便、中国上海便、台湾台北便、香港便と国際線4路線の直行便が就航している。県内企業による直行便の利用状況の調査結果が、図表4である。

### (1) 直行便4路線の利用状況

全業種で見ると、上海便が 41%と最も高く、続いて台湾便 33%、韓国ソウル便 22%、香港 12%となっている。

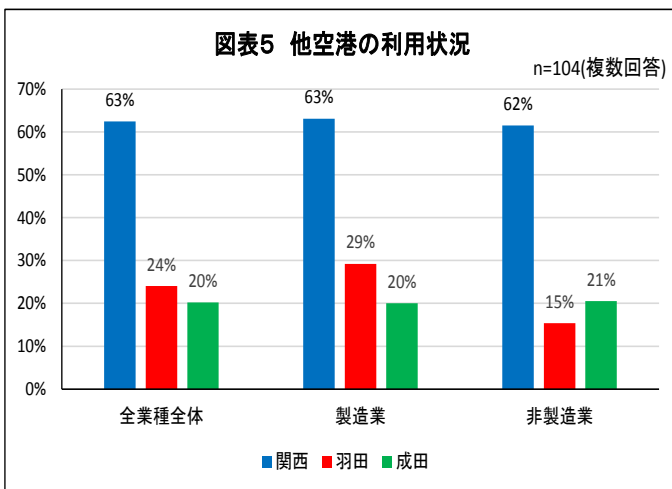
### (2) 業種別の利用状況

業種別にみると、製造業では上海便の利用が 52%と高いのに対し、非製造業では台湾便が 51%となっている。



## 3. 他空港の利用状況

前項「1. 海外出張の現状」でみたとおり、県内企業は直行便が就航していない国・地域へも出張している。その際、どの空港を利用しているかを調査した結果が、図表5である。



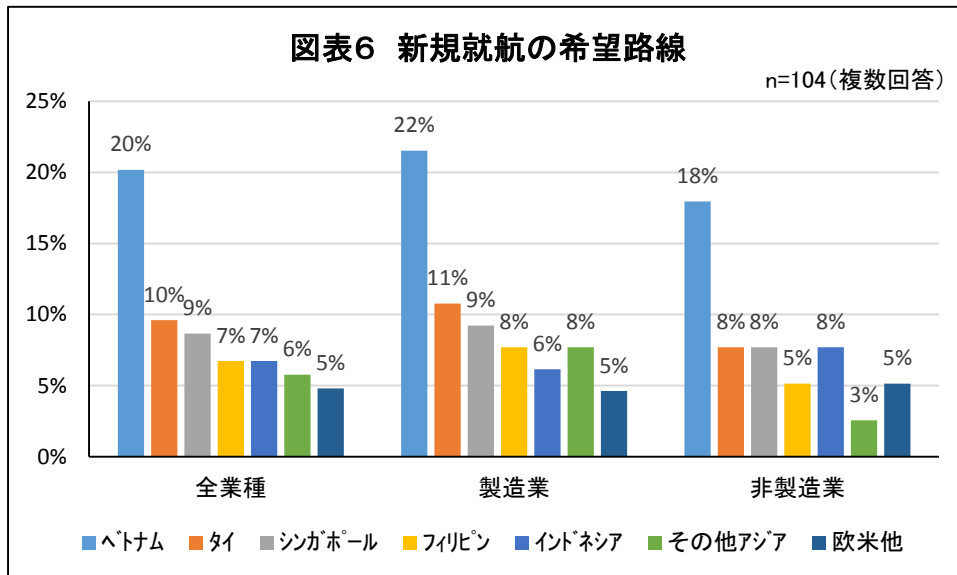
全業種全体で海外出張に利用している空港は、関西空港が 63%と最も多くなっている。

距離は関西空港より遠いが、羽田空港 24%、成田空港も 20%超と高いのは、高松空港から直行便があってトランジットのためのアクセスが容易であることが、要因と考えられる。

#### 4. 新規就航を希望する国際線

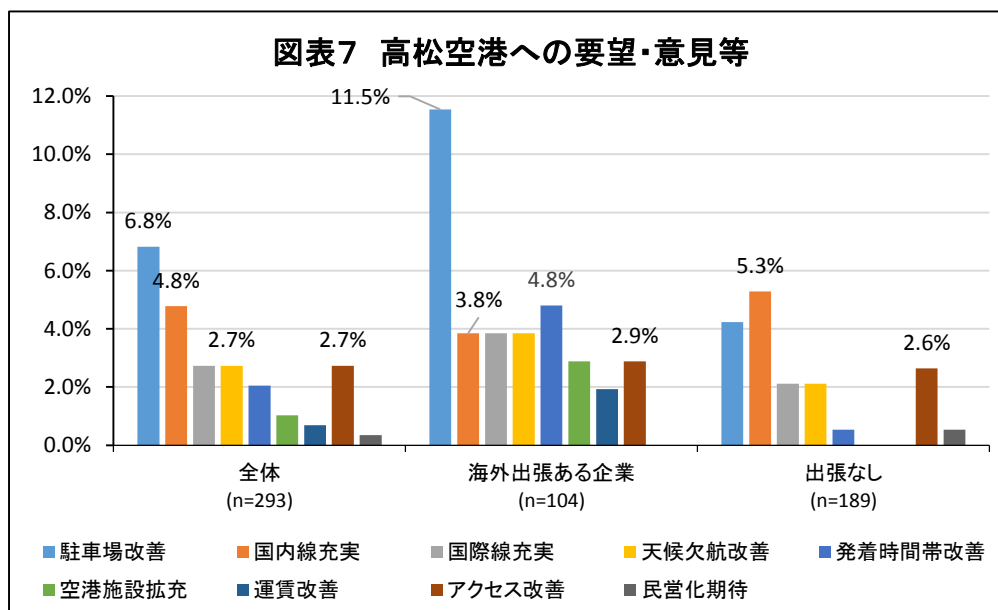
高松空港に新規就航を希望する国際線（図表6参照）を調査したところ、全業種ではベトナムを希望する企業の比率が20%と最も高い。企業にとって、ベトナムが生産面や調達面等において魅力的かつ重要な国となっていることから、就航希望が最も多くなっていると考えられる。次いで、タイ、シンガポール、フィリピン、インドネシアの順であり、東南アジアが多数を占める。

なお、「その他アジア」には、インド、ミャンマー、中国（北京、青島、大連、南昌）の就航希望が含まれている。「欧米他」には、フランス、イタリア、アメリカの就航希望が計上されている。



#### 5. 高松空港への意見、要望等

高松空港に対する企業（293社）からの意見・要望等を整理、分類したところ、図表7に記載の9項目に集約された。



全体として、最も要望が多いものが、駐車場の改善であった。次いで、国内外の就航路線の充実を求める声が続く。霧等による欠航を改善するため、高カテゴリーの計器着陸装置を導入すべきとの意見も寄せられている。

そして、海外出張企業からは発着時間帯の改善の要望がある。これらは、現地出張先での時間ロスが生じていること、またロスを回避するために他空港を利用している背景があると考えられる。

**【調査の概要】**

- 調査時期：2018年3月～2018年4月
- 調査方法：郵送によるアンケート調査
- 調査対象：香川県内に本社または事業所を持つ800社
- 有効回収率：36.6% (293社) 【集計結果は、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある】

**【業種別回答数及び構成比】**

業種	回答社数	構成比
全業種	293	100.0%
製造業	138	47.1%
素材型	44	15.0%
加工組立型	33	11.3%
生活関連型	61	20.8%
非製造業	155	52.9%
建設業	24	8.2%
卸売、小売業	43	14.7%
運輸業	15	5.1%
サービス業等	73	24.9%

(百十四経済研究所 山口)